

辺野古

圧殺の海 第2章

2016年 / 107分 / カラー / 森の映画社

共同監督：藤本幸久 / 影山あさ子

撮影：栗原良介 / 小田切瑞穂 / 酒村多緒 / 藤本幸久 / 影山あさ子 / 川村拓希

編集：栗原良介 ナレーター：影山あさ子

歌：「人間をかえせ」きむきがん（ありらん食堂）

題字：金城武政

配給：影山事務所

2014年7月1日の辺野古新基地建設の着工から、
翁長知事誕生までを描いた「圧殺の海」。
その後、沖縄・辺野古では何が起きていたのか。
翁長知事は、沖縄県民は、どうたたかって来たのか。
この映画は、翁長知事誕生からの激動の18ヶ月、
その抵抗の記録である。

特別ミニコンサート

宮城善光
ナークシクヨシミツ
ミニライブあり!



宮城善光さんのプロフィール

ナヴィをボーカルとする「寿」（ことぶき。1985年結成）でギターと三線を担当。琉球弧の島々で圧制を跳ね返し、歌い継がれる島唄とオリジナル・ソングを歌いライブ活動にて国内、世界中を飛び回る。ソロとしても活発に活動し4枚のアルバムを発表。6月19日の国会前大行動にも登壇し演奏。今回は、お忙しい中、特別に昼と夜の2回、ミニライブが実現!



★入場料の一部は辺野古・高江派遣カンパとさせていただきます。

★定員 239 名。満席となり次第、締め切りとします。

9月 4日(日)

上映 [第1回] 13時半開場 14時上映

★宮城善光ミニライブ 16時から30分

[第2回] 17時半開場 18時半上映

★宮城善光ミニライブ 18時から30分

会場 横浜情報文化センター6階・情文ホール

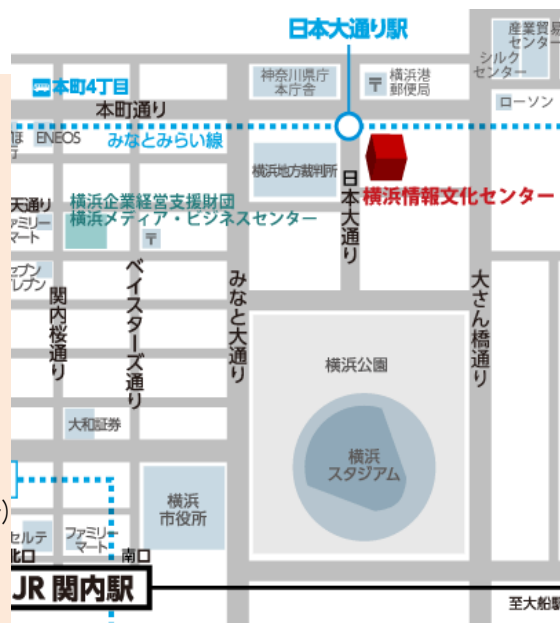
(みなとみらい線日本大通駅3番出口0分、JR 関内駅南口・市営地下鉄1番出口10分)

入場券 **1000円** (中高生 **500円**)

主催 沖縄の自立解放闘争に連帯し反安保を闘う連続講座

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/> 問合せ 090-4822-4798 深沢(沖縄講座@横浜)

協賛 島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会/基地撤去をめざす県央共闘会議/自治労横浜市従労組





2014年11月16日、沖縄県知事選挙。10万票差で仲井眞前知事を破り、「辺野古に新基地はつくらせない」を公約とする翁長知事が誕生した。しかし、日本政府は、前知事が承認したのだから「粛々とすすめる」と工事を再開する。

県民は、キャンプシュワブのゲート前に座り込み、道路に寝そべり、車の下に入り込み、工事用資材と車両の搬入を止め始めた。海では、フロートを乗り越え、コンクリートブロックの投入を止めようとした。

県民の民意を反映した直接行動を前に、安倍政権は、警察権力で圧倒しようとする。

ゲート前で、警察は幾人も逮捕する。海では海上保安庁が、カヌーを転覆させ、抗議船を転覆させ、死者を出しかねない暴力を振るう。

県民たちは、しかし、毎日、ゲート前に座り、海に出続けた。名護警察署を取り囲み、抗議し、逮捕された仲間を取り返してきた。暴力を振るい続ける海保を海には出さないと、海保の車両をゲート前で止め続けた。工事は政府の思うように進まず、ボーリング調査の予定はどんどん延びてゆく。

そして台風の季節。

2015年8月、安保法案に反対する市民が国会前に連日押しかけるようになると、政府は沖縄県に、1ヶ月工事を中断しての集中協議を持ちかける。そして安保法案が通ると、また工事を再開した。

2015年10月、翁長知事は遂に公有水面の埋め立て承認を取り消す。しかし安倍政権は、工事を中止するどころか、直ちに、国土交通省へ行政不服審査を請求、知事の承認取り消しを執行停止とした。同時に、埋め立て承認取り消しの権限を知事から取り上げようと代執行訴訟を提訴する。

知事の権限をないがしろにし、国が工事を強行するなら、自分たちが工事を止める。

県民たちは、キャンプシュワブゲート前に駆けつける。

毎週水曜日、と提起された早朝行動は、500人、700人、1000人と人数を増し、さらに木曜行動へ広がってゆく。沖縄県警だけでは押さえられないと、安倍政権は警視庁機動隊を導入。県民も、体にペンキを被って座り込む、コンクリートブロックを並べるなど、知恵をしぼって抵抗を続ける。工事用車両がゲートを通れない時間が増えてゆく。県民たちは、米軍車両も止め始める。

2016年3月4日、突然、国は代執行訴訟の和解受け入れを発表した。

「新基地建設を阻止するためにあらゆる権限を行使する」という知事の姿勢、海でもゲート前でも弾圧を恐れない県民の日々のたたかいが、国に和解を受け入れさせた。

「和解」は、1) 国は工事を中断する、2) 協議をする、3) 裁判手続きを地方自治法に基づいてやり直す、の3点を内容とするが、新たな裁判の判決で沖縄県の手足を縛り、工事を再開しようとする国の思惑が見え隠れしている。

今、工事は止まっている。しかし、中止されたわけではない。それゆえ、現場での抵抗も、止まることなく、続いている。

裁判の和解とともに新たな段階に入った辺野古。圧殺の海 第2章「辺野古」は、翁長知事誕生からの激動の18ヶ月、その抵抗の記録である。

(藤本幸久、影山あさ子)